植村直己のひと・こころを伝える企画展

北極大冒険
HIS ARCTIC ADVENTURE

冒険者が泣きごとを言って、進んだ日々

―北極圏1万2000キロの旅―

どうしよう

2025 4/25 Fri ― 9/30 Tue

南極への道のり

五大陸最高峰を制する頃から、南極大陸横断への夢は植村直己の中にありました。エベレスト登頂後、帰国して間もなくその準備をはじめます。アルゼンチンの南極基地偵察、南極大陸横断の距離3000㎞を体感するための日本列島徒歩縦断、北極圏での環境順化と犬ゾリ訓練、そして今回ご紹介する1万2000キロの犬ゾリの旅。この旅は、1年4ヶ月という長期に渡り、距離、時間そして自然環境（極夜、気温、地吹雪、氷の状況）からみても、大変過酷な冒険だったといえます。この経験が、植村直己を北極圏でのさらなる冒険に導き、彼に南極大陸横断実現への自信を与えることになるのです。

植村直己冒険館
Uemura Naomi Memorial Museum
〒669-5346 兵庫県豊岡市日高町伊府785
tel.0796-44-1515　fax.0796-44-1514
info@boukenkan.com

9:00－17:00（最終入館16：30）
水曜休館［祝日の場合は翌日休］
※年末年始12/29～1/3休館

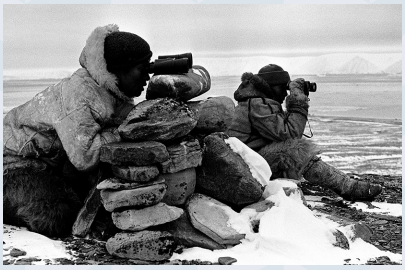
どんぐりbase

体験を通して準備をする植村直己

最初の北極圏の旅（1972～1973）では、南極大陸横断を見据え、グリーンランドのシオラパルクへ渡り、極地の環境順化と犬ゾリ技術の習得をおこないました。

犬ゾリ技術

北極圏の移動手段として使われていた犬ゾリ。全長8mもある皮のムチを使って、犬に指示を出すのは至難の業です。植村直己はエスキモーから犬ゾリ技術を教わり、単独で3000kmの移動を完遂しました。



狩猟

アザラシ、セイウチ、ウサギ、鳥類、オヒョウ、イカルワック（イワシに似た魚）、鱒、鯨、白熊など、様々な生き物がエスキモーの生活の糧です。食料としてだけでなく、皮や毛皮は衣類や犬ゾリのムチの材料にもなります。

HIS ARCTIC ADVENTURE

そして2度目の北國圏の旅（1974～1976）へ。厳しい自然環境のなか、培った経験を糧に、1万2000キロという未知なる距離を一人で進みました。長い道のりの中で、落ち込み、腹を立て、そして安堵し、さまざまな感情が湧きました。
今回の特別展では、そんな人間味あふれる植村直己を、ちょっと弱気な部分から、身近に感じていただければと思います。

出発に向けて食料やソリの準備を一人で行う

旅の終盤に立ち寄ったポイントホープで一息つく

写真提供＝文藝春秋

植村直己
1万2000キロの旅を
知る本

『北極圏1万2000キロ』
植村直己著、ヤマケイ文庫